



新年度を迎えて

校長 梶谷 雅弘

今日から、23年度がスタートしました。みなみ学級（特別支援学級）が、2学級となり、13学級（6年のみ1学級）でのスタートとなりました。

特別支援学級では、一人一人の児童の障害の状態や特性などに応じた教育を行います。また、教科や特別活動などについて、通常の学級と密接な連携をはかり、障害のない児童との活動とともに推進して参ります。この交流により、障害のない児童にとっても、思いやりのある、温かな心を育む教育環境となり、より豊かな心を育成することが出来るものと確信をしています。

保護者や地域の皆様の期待に応えられるよう全教職員が心をつなげて以下のような学校を目指して教育活動を進めて参ります。今年度もご支援賜りますようお願い申し上げます。

1 目指す学校

- (1) 環境美化に努め、児童が安心して楽しく学ぶことができる学校
- (2) 基礎的・基本的な学力をしっかりと定着させ、自己学習力の育成を図る学校
- (3) 授業力の向上に努め、質の高い教師集団をめざす学校
- (4) 保護者・地域の人々に愛され共に歩む学校



2 平成23年度の達成目標と方策

- (1) 共感的な児童理解に基づいた生活指導体制を確立する。
 - ① 全教職員により作成した『南田中小学校「学習・生活指導の全体計画」』を活用し、6年間を見通した学年の発達段階に応じた「学習や生活に関する躰け」の指導に当たる。
また、基本的な生活習慣を徹底的に身に付けさせるとともに規範意識の育成に努める。
 - ② 場に応じた言葉遣いや相手を尊重した言葉遣いができるようにするとともに「返事・あいさつ・あとしまつ・ありがとう」を徹底させ正しい人権感覚を身に付けさせる。
 - ③ 問題の早期発見・早期解決と問題の予防・解決を図るため、毎週1回木曜日の夕会で生活指導関係の打ち合わせを行う。その会で、報告・連絡・相談・記録を徹底して行うとともに関係機関との行動連携を図る。
 - ④ 「みなみ学級」と各学級との交流学习を進め、一人一人の違いを認め合い尊重しあえる思いやりにあふれた心豊かな児童を育てる。
- (2) 基礎的・基本的な学力の定着を図り、自己学習力を育成する。
 - ① 各教科で電子黒板や実物投影機等のICTを活用したり、体験活動を取り入れたりして一人一人の児童に確かな学力を身に付けさせる。
区立南田中図書館と連携し様々な支援を得ながら、最新資料や本を手元に置き学習ができるようにし、活字に親しむ学校づくりを推進する。児童の学習意欲向上・課題解決能力の育成に努め、読む力や自分の考えを発表する力を育てる。また、学校図書館支援員や読み聞かせボランティアと連携し、児童の読書量を増やし読書の質を高めていく。
特に、区立南田中図書館と連携し、校内研究を進め、国語科を通して、言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
今年度は、特に、24年2月9日(木)に研究発表会を開催しその研究の成果を発信する。
 - ② 算数においては少人数指導を基盤に、きめ細かい指導を展開する。
 - ③ 新体力テスト結果を基に一人一人の体力向上のための目当てをもたせ実践させる。年間指導計画に基づき健康朝会を毎月開催し、全校体制で食育の指導に当たる。
 - ④ 補充・発展的な学習を計画的に実践し、長期休業中に補充学習教室を開催する。
- (3) 授業力の向上に努め、質の高い教師集団をめざす。
 - ① 校内研究で国語科の研究を進め、国語科指導の基礎・基本をしっかりと学び合い、全教員の指導力向上を図り、日々の授業の質を高めていく。
 - ② ベテラン教師を講師とした若手教員の授業力向上を目指した研修会を月1回以上開催する。
 - ③ 校内研究で、全教員が1年に1回以上研究授業に挑戦し、謙虚に学び合う。
 - ④ 外国語活動の指導方法について、継続して研修を行い、児童にコミュニケーション能力の素地を身につけさせる。【年間みなみ学級・1・2年は5時間(教科外)、3・4年生は5時間(国際理解教育)、5・6年生は、35時間(外国語活動)として指導に当たる。】
 - ⑤ 児童の学級・学年・学校への所属満足度を高めるために、全教職員で多面的・組織的にきめ細かな児童理解に努め、一人一人のよさを伸ばす。
 - ⑥ 事務職員・栄養士・給食調理員・用務主事の総力を結集して質の高い教師集団を支える。必要に応じて学校行事の支援を行う。
- (4) 学校関係者評価を実施し、学校改善に生かすとともに保護者・地域に結果を公表する。
 - ① 保護者・地域との双方向の交流を一層図り、家庭や地域とともに教育にあたるために、2月までに学校関係者評価を実施する。2月下旬に学校評価報告書を区教委へ提出するとともに、その結果を生かし24年度の学校経営計画を作成したり教育課程の編成をしたりする。また、その結果を保護者・地域に公表する。
 - ② 「親父の会」の活動を充実させ、学校と父親との連携をさらに強固なものにする。